

キュウリ黄化えそ病の発生に注意しましょう!

メロン黄化えそウイルス (*Melon Yellow Spot Virus* 略号MYSV) によるきゅうりの黄化えそ病の発生が全国的に広まりつつあります。本県ではまだ発生を確認していませんが、近県では平成14年に群馬県、平成17年に埼玉県で確認されています。

キュウリ黄化えそ病とは?

メロン黄化えそウイルス (MYSV) の感染によって発生する病気で、病徴は、葉でははじめ葉脈の透過症状が現れ、その後、モザイクを生じたり、退色あるいは黄化し、えそ斑点を生じます。感染株は生育が抑制され減収し、症状が激しい場合は枯死することもあります。果実にはほとんど症状が現れませんが、まれに果実表面にモザイク斑を生じることがあります。



葉脈の透過症状 (撮影:宮崎県防除所)



えそ斑症状 (撮影:宮崎県防除所)

伝染方法は?

病原ウイルスは、ミナミキイロアザミウマによって媒介されます。幼虫時に感染株を吸汁することによってウイルスを獲得し、その後一生ウイルスを媒介することができますが、経卵伝染はしません。管理作業中に手やハサミで接触伝染することはありません。また、土壌伝染及び種子伝染もしません。このウイルスは、コナジラミ類やアブラムシ類等その他の害虫は媒介しません。

ミナミキイロアザミウマの雌成虫の体色は鮮やかな黄色で、体長は1.0mm程度、雄成虫は麦わら色で、体長は0.8mm程度です。幼虫はかなり微細で、淡黄色です。他種との見分け方は成虫の背中の中中央部に縦の黒い線があるように見えることで判別できます。



ミナミキイロアザミウマ

ウイルスの寄主範囲は？

科名	作物名
ウリ科	○キュウリ、○メロン、○スイカ、○シロウリ、トウガン ニガウリ、ユウガオ、ヘチマ
ナス科	ペチュニア
ゴマ科	ゴマ
アカザ科	ハウレンソウ
ツルナ科	ツルナ
ゴマノハグサ科	キンギョソウ、トレニア

注1) 寄主のうち経済栽培作物を抜粋した。

注2) ○印の作物は我が国で被害の発生が確認されたもの。

防除方法は？

- ① 発病株は伝染源となるため直ちに抜き取り、ビニール袋等に入れて密封し、完全に枯死させる。
- ② 施設栽培では施設開口部に防虫ネットを設置し、媒介虫であるミナミキイロアザミウマの侵入を防ぐ。
- ③ 青色粘着板を施設内に設置し、媒介虫の早期発見に努める。
- ④ ミナミキイロアザミウマの発生初期から薬剤防除を行う。なお、薬剤抵抗性の発現を防ぐため同一系統の薬剤の連用は避ける。
- ⑤ 施設栽培では、栽培終了時に密閉処理して媒介虫を死滅させ、施設外への飛散を防止する。

ミナミキイロアザミウマの主な防除薬剤

薬剤名	希釈倍率	収穫前日数／使用回数
ベストガード粒剤	1～2g／株 植穴処理土壌混和	定植時／1回
アドマイヤー1粒剤	1～2g／株 植穴又は株元土壌混和	定植時／1回
モスピラン水溶剤	2000～4000倍	収穫前日まで／3回以内
ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫前日まで／3回以内
アグロスリン乳剤	1000倍	収穫前日まで／5回以内
コテツフロアブル	2000倍	収穫前日まで／2回以内
アフーム乳剤	2000倍	収穫前日まで／2回以内
スピノエース顆粒水和剤	5000倍	収穫前日まで／2回以内
ハチハチ乳剤	1000～2000倍	収穫前日まで／2回以内

注1) スピノエース顆粒水和剤、ハチハチ乳剤はアザミウマ類の登録です。

注2) 登録内容は平成18年7月12日現在のものです。

疑わしい症状を見つけた場合には、最寄りの農業振興事務所にご相談ください。

● 本資料に関する問い合わせ先: 栃木県農業環境指導センター ●
TEL 028-626-3086 FAX 028-626-3012